

「この人 23」

彦阪義久 61歳 兵庫県

八木 滑稽俳句協会報のハイクアートの欄に「滑稽写俳」の連載をお願いしていますが、ますますワザが冴えていますね。

彦阪 嵌っています。NHK・BSの「フォト五七五」でも再三、殿堂入りをさせて頂きました。

八木 写真と俳句の組み合わせは、どのようなきっかけでしたか。

彦阪 お忘れになりましたか。八木健さんに勧められたのです。滑稽俳句協会報に協力をということで、私はできるのは写真と俳句です。じゃあ組み合わせてみましょうと。以前から八木さんの「追っかけ」してましてね(笑)。八木健選のインターネット俳句大賞にも応募してました。それから、八木さんの所属している「圭」にも入会。俳句王国にも投句して何度か入選もしています。

八木 長いお付き合いなんですね。滑稽論を伺いましょうか。

彦阪 私の滑稽は「八木健作品の研究」から始まりました。なんで可笑しいんだろう。そして分かったのは「ちょっとヘンテコ」ということなんです。写真もちょっと外れたところが面白いんです。写真と俳句は、別々につくりますが、後でつき合わせると意外性が生まれる。ある日突然、俄然面白いものができるわけです。

八木 俳句歴十年、写真歴が五年とは信じられないけどホントなんですねえ。

< 代表句 >

ソーダ水泡がドキドキしています

竹婦人ちゃんと名前が付いている

西瓜切る子等に分数教へつつ

六月の水溶性の恋心

告白の後もふらここ揺れやまず